

委員会・組織名 教育1 医学部教務委員会

医学部教務部長

中間責任者②(部長・委員長等)氏名 岡田英孝

※1該当事項

①新中期計画、②当年度事業計画、③前年度最終報告課題、④独自の課題、⑤自己点検評価委員会からの指摘事項、に分けて記載してください。

※2評価

S: 優れて達成している A: やや優れて達成している B: 概ね達成している
C: やや達成が不十分 D: 全く達成できていない

	委員会・組織が策定・作成(「箇条書き」で「端的に」、文末は「だ・である」調、もしくは体言止め)				教育研究推進委員会による点検・評価				
	目標・計画(具体的、かつ実現可能なもの) (教務委員会・入試検討委員会のみ) 3つのポリシーに基づく目標・計画を一つ以上設定し、別紙コード表を参考に該当項目のコードを目標の後に記載してください。		該当事項 (※1)	中間報告	最終報告	中間報告評価	最終報告		
				途中経過・状況	評価 (※2)		部門講評	評価 (5段階)	講評
当初 目標・計画 (5つまで)	1	医師国家試験合格率 私立医科大学上位を目指す	①③	6学年において自習室のグループ学習を推進している。成績下位者についてはSクラスを設定し、別途指導することで、成績上昇を目指している。留年者はMECに通学し、国家試験対策を行うことで学生の成績の底上げを図っている。	S	6学年は自習室作業部会監修のもと、メンターの先生方の協力を得て、自習室におけるグループ学習を推進した。その結果、115名中109名が2月7,8日の国家試験に臨み、109名中106名合格、合格率97.2%と前年度から躍進することができた。	自習室の活用、グループ学習の成果に期待する。	A	成果を挙げることができた。
	2	留年者数減少により収容定員数の遵守を目指す	①	医学教育作業部会のもと、各学年の成績下位学生の状況を確認し、情報を共有して、対象者の学力の底上げを図っている。	B	令和7年度留年者は1学年19名(内1名除籍対象)、2学年3名、3学年2名(2名とも除籍対象)、4学年5名(内1名除籍対象)、5学年5名(内1名除籍対象)、6学年6名(内2名除籍対象)の合計40名(内5名除籍)となった。2学年以上については前年度に比べ留年者は減少したが、1学年において昨年度より大幅に増加した。このことから次年度以降も学年ごとに学生数の偏りが見られることは否めない。	最終報告を待つ。	C	1学年で多くの成績不振による留年者が発生した。原因究明と対策が必要である。
	3	医学教育改革に対応した教育体制を構築する(CP)	②	卒業試験の追再試験後も継続した学習習慣をつけさせるために追再試験②として、毎週の試験を導入した。また、追再試験②の受験者に対しては年末年始に学長特別補佐面談を実施を予定し、国試合格率向上のための学習に取り組むための土台作りを行っている。	A	中間報告にもあった追再試験②に対して、対象者が真摯に学習に向き合い、追再試験①での留年者以外は全員合格を果たした。また、年末年始の学長特別補佐面談においても、学習に向かう意欲的な姿勢が確認された。また、5学年の進級に際しても、進級判定後に追加試験を実施することで、自学自習を促し、底上げにつなげたい。	着実に実行されたい。	A	年度途中とはなったが学習を促す試験を追加で実施した。次年度は計画的に実施されたい。
	4	医学生としてのアンプロフェッショナルな行為を一掃する(M1)	②④	アンプロフェッショナルについて全学年学生にガイダンスを実施した。1学期においては15案件、延べ51名が対象となり、そのうち5名がアンプロ2回目の面談を実施した。また、1名については3回目のアンプロとなり、保護者面談を実施した。	B	アンプロフェッショナル学生は2学期にも13案件、延べ39名が対象となった。うち1件が3回目のアンプロとなり保護者面談を実施した。今年度の実施結果と運用上の反省を踏まえ、来年度のアンプロの仕組みの再構築を図る方針である。	最終報告を待つ。	B	初年度多くの学生がアンプロ対象となった。アンプロとせずとも、科目の担当教員が対応できるケースもあるため、次年度に向け再構築が必要である。
期中追加 目標・計画									

目標以外の取り組み・成果(最終報告時に記載)	委員会 評価	委員会講評
上記目標以外での3つのポリシーを踏まえた活動(対応コードもカッコ書きで記載) SA制度の発展(M6): 令和6年度から開始されたSA制度により研究医養成コースの学生のみならず、一般学生も含め、講座の補助に入る機会が増えたことで、低学年から各講座の研究に触れる機会が増えた(SA登録者数は令和8年1月現在で69名)。自主的に学会に参加する学生も増加し、科学的思考の醸成を図ることにつながった。	S	学生のアルバイトとして定着し研究マインドの醸成に繋がった。
アセスメント・ポリシーに則る点検・評価(留年率、国試合格率など、数値化可能な成果を記入) 留年者数 1学年 9名→19名(内1名除籍対象、休学留年3名含)、2学年 6名→3名、3学年 8名→2名(2名とも除籍対象)、4学年 7名→5名(内1名除籍対象)、5学年 8名→5名(内1名除籍対象)、6学年 11名→6名(内2名除籍対象、休学留年1名含) 国家試験合格率 新卒 97.2%(109名中106名合格) 既卒 68.8%(16名中11名合格) 合計 93.6%(125名中117名合格) 令和7年度休学者 1学年3名 6学年1名(令和6年度休学者2名に対し増加。)	C	目標計画シートに記載のとおり。

委員会・組織名 教育2 医学研究科教務委員会

医学研究科教務部長

中間責任者②(部長・委員長等)氏名 人見浩史

※1該当事項
①新中期計画、②当年度事業計画、③前年度最終報告課題、④独自の課題、⑤自己点検評価委員会からの指摘事項、に分けて記載してください。

※2評価
S:優れて達成している A:やや優れて達成している B:概ね達成している
C:やや達成が不十分 D:全く達成できていない

	委員会・組織が策定・作成(「箇条書き」で「端的に」、文末は「だ・である」調、もしくは体言止め)				教育研究推進委員会による点検・評価			
	目標・計画(具体的、かつ実現可能なもの) (教務委員会・入試検討委員会のみ)3つのポリシーに紐づく目標・計画を一つ以上設定し、別紙コード表を参考に該当項目のコードを目標の後に記載してください。	該当事項(※1)	中間報告	最終報告		中間報告評価	最終報告(案)	
			途中経過・状況	評価(※2)	部門講評		評価(5段階)	講評
当初 目標・計画 (5つまで)	1 修士課程、博士課程の入学定員充足率の向上 (AP) 2 学習成果の可視化や博士課程副指導教員の活用による修業年限内での学位取得の促進 (MM3、MD3) 3 国際大学院の出願者数増加 (博AP) 4 博士課程ダブルディグリープログラムの定員確保と運用整備 (MD4) 5 修士課程の研究分野の再編と新たな領域の開設の検討 (修CP)	①②③ ①②③⑤ ①②③ ②④ ③④	HPの構成刷新、ダブルディグリープログラムの拡充により出願者増加に取り組んでいる。修士第一次募集では6名と多数の出願があり、追加募集も含めて定員8名の充足を目指す。 研究計画書と進捗状況報告書の見直しを進めており、1学年で適切な研究計画を立て、年度末には各学年次の成果を可視化できる様式を検討している。また、博士1学年に副指導教員制度を導入し、活用状況を注視する予定である。 英語版の研究分野紹介を更新し、HPの充実を図る予定である。今後2026年9月入学者の募集に向けて、関係教員の打合せを行い、効果的な広報策を検討する。 今年度入学者に関して、学籍登録やコチュテル協定などの運用整備を進めている。新たに開始したヴェネツィア大学とのプログラムについては、入試運用の整備が完了した。今後積極的な広報により定員確保を目指す。 教務関係者と、新設のメディカルデータサイエンス講座教員とで、医療経営の領域開設に向けた打合せを行い、検討を開始した。	S B B B C	修士課程は定員8名に対し7名の入学見込となった。充足には至らなかったものの、過去最多に並ぶ数となっている。博士は定員50名に対し第一次募集で27名が合格、追加募集で19名の出願があり、過去数十年の中でも最多の入学者となる見込である。9月入学の国際大学院等も含めると定員を上回ることも予想される。 博士課程にて新たな研究計画書を定め、運用を開始した。進捗状況報告書についても年度末までに見直しを行い、学習成果の可視化を進める予定である。また、学位取得の促進のために副指導教員制度を導入し、研究支援体制を強化した。 2025年9月入学の入試では定員8名に対し8名が出願、7名が合格となった。出身国もベトナム、インドネシア、セネガル、タイ、メキシコなど多岐にわたる。2026年9月入学についても、募集要項や研究分野紹介を更新しつつ、募集を進めている。 プログラム開始後の運用整備について、一定の進捗があったものの、経済支援やカリキュラムに関しては検討課題を残している。トリノ工科大学(定員1名)の候補者は調整中であるものの、ヴェネツィア大学プログラムでは定員3名を上回り、入学者5名を確保できる見込である。 医療経営の領域開設について、関係者打合せを経て学長報告を行った。その後、開設に向けた諸課題について他大学の状況等の調査を進めている。	最終報告を待つ。 着実に進んでいる。 下半期の活動に期待する。 最終報告を待つ。 下半期の活動に期待する。	A B B B C	博士課程は開設以降最も多くの志願者を確保した。修士課程もこれに続くことを期待する。 提出書類の変更や副指導教員制度は導入したばかりであり、次年度に期待する。 出願要件の定めがあり、志願者確保に苦慮している。広報の拡大が求められる。 検討課題がある中での志願者確保に苦慮している。広報の拡大が求められる。 次年度の活動に期待する。
期中追加 目標・計画								

目標以外の取り組み・成果(最終報告時に記載)	委員会評価	委員会講評
上記目標以外での3つのポリシーを踏まえた活動(対応コードもカッコ書きで記載) がんプロ事業の充実(MD3):R5年度からの第4期のがんプロ事業採択と補助金交付を受け、がんプロ大学院生の募集やがんプロセミナーの実施を進めている。R7年度はがんプロ大学院生4名が入学し、これまでに8回のがんプロセミナーを実施した。また、附属病院新薬開発科センター教授をがんプロ運営推進委員に加えるとともに、がんプロ大学院生1名も治験分担医師として同科の取り組みに参画し、国内外で研鑽を積んでいる。		
アセスメント・ポリシーに則る点検・評価(留年率、国試合格率など、数値化可能な成果を記入) ・修士入学予定者:7名 ・博士入学見込:46名+国際大学院(2026年9月入学者) ・国際大学院入学者(2025年9月):7名(5か国) ・ダブルディグリープログラム入学見込:トリノ工科大学調整中、ヴェネツィア大学5名 ・副指導教員の導入:博士1学年のうち4名が所属以外の研究分野の指導教員を設定(ただし一部未提出や、他大学等の教員の設定などもあり)		

委員会・組織名 教育4 看護学部教務委員会

看護学部教務部長

中間責任者②(部長・委員長等)氏名 李 錦純

※1該当事項
①新中期計画、②当年度事業計画、③前年度最終報告課題、④独自の課題、⑤自己点検評価委員会からの指摘事項、に分けて記載してください。

※2評価
S:優れて達成している A:やや優れて達成している B:概ね達成している
C:やや達成が不十分 D:全く達成できていない

	委員会・組織が策定・作成(「箇条書き」で「端的に」、文末は「だ・である」調、もしくは体言止め)				教育研究推進委員会による点検・評価			
	目標・計画(具体的、かつ実現可能なもの) (教務委員会・入試検討委員会のみ)3つのポリシーに紐づく目標・計画を一つ以上設定し、別紙コード表を参考に該当項目のコードを目標の後に記載してください。	該当事項(※1)	中間報告	最終報告	中間報告評価	最終報告		
			途中経過・状況	評価(※2)		部門講評	最終報告(案)	講評
当初								
目標・計画 (5つまで)	<p>1 就学年数5年以上の学生および成績不振学生への組織的・継続的な教育支援の充実と、現状の支援体制の実効性を評価する。(N3, N7)</p> <p>2 令和8年度に導入予定の3年次OSCEおよびCBTの運用体制について、OSCE班およびシミュレーション班等関連プロジェクトとの連携を図り整備する。(N7, CP)</p> <p>3 ディプロマ・ポリシーの達成状況と整合した卒業時到達レベルの評価方法について、組織的な評価体制および仕組みを構築する。(CP)</p> <p>4 令和7年度より導入した2学期4ターム制の円滑なカリキュラム運用に向けて、実施状況を把握し検討課題を明確化する。(CP)</p> <p>5 学生支援における学生ニーズ把握に対する具体的な取り組みについて、学生委員会と連携し組織的な体制を整える。</p>	<p>②③④</p> <p>③④</p> <p>③④</p> <p>③④</p> <p>⑤</p>	<p>途中経過・状況</p> <p>・GPA2.0未満の成績不振学生および過年度生全員を対象に教務委員による個別面談を実施、ケースによっては保護者を含めた面談や学生委員会(担任・チューター)と連携し学習状況の把握と課題の明確化を図った。 ・今年度より、成績不振学生の学習意欲の向上を目的としたフォローアップ面談を導入し支援体制の強化に取り組み、その実効性についても評価する予定である。</p> <p>・8月6日に、OSCE班主導で全教員および臨床看護学教員、大学院生TAの協力体制により、分野・領域横断型のOSCEを実施した。 ・全教員から意見集約を行い、令和8年度の3年次OSCEおよびCBT導入に対する合意を得て、方向性が確定した。令和8年度は3年次OSCEおよびJANPU-CBT実証事業に参加、従来の4年次OSCEは令和8年度までの実施となった。今後、小委員会を結成し具体的な運用体制の構築と準備を進める。</p> <p>今年度もeポートフォリオの活用によるDPの達成状況の評価を継続しているが、DPと整合した卒業時到達レベルの評価については、課題整理を行っている段階である。引き続き、OSCEやCBTの評価体制の確立や卒業試験の導入等、体制構築に向けて具体的な提案と検討を行う予定である。</p> <p>4月および7月に、教務委員より学年別に詳細なオリエンテーションを実施した。今年度より90分授業、ターム末試験の導入、実習日程の変更等があったが、前期は大きな混乱もなく、順調に進行している。前期終了時点で時間割配置やカリキュラム進行上の課題について、科目担当教員を対象に意見集約を行っており、現状把握と検討課題の明確化に努めている。</p> <p>看護学部教務・学生小委員会規定を制定(6月教授会承認済・7/1施行)、9/25に学生委員会と連携し第1回小委員会および懇談会を開催予定であり、組織的な体制を整えている。それに先立ち、学生からの意見を集約し、ニーズ把握に努めている。</p>	<p>最終報告</p> <p>・前年度GPA2.0未満の学生および過年度生26名に対する個別面談を実施、ケースにより保護者を含めて面談を行った。 ・履修上課題がある学生に対する学生委員会、学年担任、チューターと連携した相談支援、保護者懇談会における学習状況説明と希望者への面談対応を行った。 ・前期GPA2.0未満の学生26名を対象に、10月に教務委員によるフォローアップ面談を実施し学習状況把握とフォローを行った。 ・指針に則り、申請があった教務上アンプロフェッショナルな学生5名に対して面談指導を行った。 ・eポートフォリオを活用した継続的な教育支援を行っている。 以上の通り、組織的な教育支援体制の強化に継続的に取り組み、学習習慣の見直しと学習意欲の喚起に一定の効果を得られた。</p> <p>今年度も内容を充実しつつ、各分野・領域の演習科目でシミュレーション教育、全教員参加による4年次OSCEを継続的・組織的に取り組んだ。 ・3年次CBT/OSCEの導入準備を進めていたが、JUNPU-CBT実証事業は次年度より看護学教育モデル・コアカリキュラム改訂版に対応した内容に編成されることが判明したため、再検討の結果、コアカリに対応した本学カリキュラムの見直し後に導入となった。 ・今後の導入に向けた具体的な運用体制の構築と整備を推進していく。</p> <p>・学年末に、eポートフォリオによるDPの達成状況の評価を実施予定。 ・具体的な提案に基づく全教員からの意見集約をふまえて、DPと整合した卒業時到達レベルの評価体制の検討を進めている。上述のコアカリ対応を進めつつ、CBT/OSCEの評価体制、卒業試験導入他の組織的な評価体制の構築を進めていく。</p> <p>学生への成績開示日や実習対応、助産師コースで一部調整を要したが、随時対応し、概ね順調に進行している。2月に全教員から運用上の課題を意見集約し、年度末に結果をまとめ、次年度に向けた改善案を提案予定である。</p> <p>9/25に第1回小委員会を実施し学生からの意見集約および意見交換を行った。教務事項に関する要望をふまえて逐次検討し改善を進めている。第2回小委員会を2/5に予定しており、再度意見交換の上、学生のニーズ把握と対応を行う。</p>	<p>着実に進めることができた。成果に期待する。</p> <p>着実に進んでいる。</p> <p>下半期の活動に期待する。</p> <p>最終報告を待つ。</p> <p>最終報告を待つ。</p>	<p>A</p> <p>A</p> <p>B</p> <p>A</p> <p>A</p>	<p>様々な施策を実施し、支援の充実に努めることができた。実効性の評価を継続して実施されたい。</p> <p>導入時期が延期になったとのことであるが、引き続き、運用体制の構築と整備に努められたい。</p> <p>難しい課題に全教員からの意見を踏まえて検討されていることは評価できる。引き続き、対応いただきたい。</p> <p>学期制の変更は大きな混乱なく対応することができた。</p> <p>学生が参画する委員会を設置し体制を整えたことは評価できる。</p> <p>より一層の可視化に努めていただきたい。</p>	
期中追加 目標・計画	学習成果の可視化について、実施状況を把握し課題の明確化と対応を検討する。			B	<p>・学修時間・学修行動実態調査、卒業時・卒業後アンケートを継続して実施し状況把握に努めている。 ・KMULASのeポートフォリオを活用し、学生のDP到達度をレーダーチャートで可視化し、チューターコメントを記載してフィードバックしている。</p>		A	より一層の可視化に努めていただきたい。

目標以外の取り組み・成果(最終報告時に記載)	委員会 評価	委員会講評
上記目標以外での3つのポリシーを踏まえた活動(対応コードもカッコ書きで記載)		
アセスメント・ポリシーに則る点検・評価(留年率、国試合格率など、数値化可能な成果を記入)		
GPA分布状況:3月に確定予定 修得単位数:3月に確定予定 基礎看護技術の到達度調査:3月に実施予定、新カリキュラムに対応して項目の見直しを行い、今年度より改訂版で実施予定 学修履歴(e-ポートフォリオ):2~3月にかけて学年末におけるDP達成度を評価予定 学修時間・学修行動実態調査:現在結果を集計中である		

委員会・組織名	教育5	看護学研究科教務委員会
中間責任者②(部長・委員長等)氏名		看護学研究科教務部長 瀬戸奈津子

※1該当事項
①新中期計画、②当年度事業計画、③前年度最終報告課題、④独自の課題、⑤自己点検評価委員会からの指摘事項、に分けて記載してください。

※2評価
S:優れて達成している A:やや優れて達成している B:概ね達成している
C:やや達成が不十分 D:全く達成できていない

	委員会・組織が策定・作成(「箇条書き」で「端的に」、文末は「だ・である」調、もしくは体言止め)				教育研究推進委員会による点検・評価				
	目標・計画(具体的、かつ実現可能なもの) (教務委員会・入試検討委員会のみ)3つのポリシーに紐づく目標・計画を一つ以上設定し、別紙コード表を参考に該当項目のコードを目標の後に記載してください。		該当事項 (※1)	中間報告	最終報告		中間報告評価	最終報告(案)	
				途中経過・状況	評価 (※2)	部門講評		評価 (5段階)	講評
当初									
目標・計画 (5つまで)	1 大学院の拡充と大学院生の確保ならびに収容定員の管理	①④	<ul style="list-style-type: none"> ・大学院の拡充に向けて2027年度より博士前期課程の高度実践看護師コースに災害看護の設置を、博士後期課程にDNP (Doctor of Nursing Practice) コースの開設準備を進めている。 ・入学生の確保は、2の博士前期課程のオリエンテーションやガイダンスに加えて広報戦略室や広報委員会と協同し、ホームページ等を通じた情報発信に努めている。 ・収容定員の管理は、4の長期履修制度の緩和により、修業年限内に修了できるよう対応している。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・災害看護学は準備性が伴わず、2028年度の開設に延期したが、DNPコースの開設は基本方針を定め、予定通り2027年度の開設準備を着実に進めている。 ・ホームページでの情報発信に加えて、全国規模の学術集会2件での広報予定とし、入学生の確保に努めている。 ・長期履修制度の緩和により、3名申請し、修了年限内の修了を目指している。 	着実に進んでいる。	A	大学院の拡充として、DNPコースが2027年度に開設予定として進めることができた。より一層の広報に努めていただきたい。	
	2 看護学部キャリア支援委員会との協同による学部生の博士前期課程進学支援(修AP2.3)	①③	<ul style="list-style-type: none"> ・4月2日(水)キャリア支援委員会3年生オリエンテーションにて進路情報を提示し、7月11日(金)第1回進路ガイダンスにて博士前期課程についての説明および入試説明会日程を案内済。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーションとガイダンスにより、博士前期課程に学部卒業生1名、附属病院看護師1名(休職)が入学試験を受験し合格した。 	最終報告を待つ。	B	学部卒業予定者の進学は1名に留まった。次年度に期待する。	
	3 看護キャリア開発センター・附属施設看護部との連携による看護師の博士前期課程進学支援(修AP2.3)	①② ③	<ul style="list-style-type: none"> ・看護学部卒業生が臨床看護師4年目を迎えることから、附属施設看護部との連携による卒業生対象の進学支援研修会の企画を検討予定。 ・昨年度同様に看護キャリア開発センターの看護研究支援部門及び附属施設看護部と連携し、12月13日の看護部看護研究交流会にて看護研究に関心のある看護師対象に博士前期課程進学についての情報提供予定。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・2に記載の通り、附属施設看護部及び看護キャリア開発センターとの連携により、学部卒業生1名ならびに附属病院看護師1名の入学実績を得た。 	最終報告を待つ。	B	附属関連施設からの進学は1名に留まった。次年度に期待する。	
	4 博士後期課程学位取得率促進への取り組み(ND1)	③④	<ul style="list-style-type: none"> ・6月10日(火)大学院生対象の論文ガイダンスに加えて、本年度より審査教員対象に論文審査ガイダンスを7月22日に(火)実施し、論文執筆・審査の円滑化を図った。 ・本年度より長期履修制度に関する規程を緩和し、職業を有する者が申請できるように整えたことで、現在3名の申請者がみられている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・長期履修制度の緩和以降、博士後期課程では2名が申請し、修了年限内の修了を目指している。 ・本年度公聴会3件開催され、本年度数名の修了見込である。 	着実に進めることができた。成果に期待する。	A	様々な取り組みを実施したが、取得率が向上したかが不明のため、数値で報告されたい。	
	5 博士後期課程DNP (Doctor of Nursing Practice) コース開設準備(博AP3)	①② ③	<ul style="list-style-type: none"> ・ワシントン大学DNPコースを修了し、現在日本のDNPコースに在籍している講師を招聘し、大学院教務委員会・看護学部FD委員会共催研修会を2025年8月20日(水)に実施した。附属医療機関看護部からも多くの聴講を得てDNPコースの理解を深めるとともに、開設に向けての情報収集と準備を行った。 ・9月1日より米国の複数のDNPコースをもつ2大学大学院で教員が研修し、教員や大学院生との情報交換をもとに本学独自のカリキュラム等構築予定。 	S	<ul style="list-style-type: none"> ・附属医療機関看護部からも多くの聴講を得た共催研修会後アンケートにて、DNPコースへ進学を検討している参加者が3名みられた。 ・9月の米国研修成果により、カリキュラム構築の方向性と持続可能とするための課題が明確になり、出願資格、入試概要、コース目的、修了要件等を具体的に定めることができた。 	下半期の活動に期待する。	S	大学院の拡充として、DNPコースが2027年度に開設予定として進めることができた。	
期中追加 目標・計画									

目標以外の取り組み・成果(最終報告時に記載)	委員会 評価	委員会講評
上記目標以外での3つのポリシーを踏まえた活動(対応コードもカッコ書きで記載)		
専門看護師有資格者累積数(NM4・5・6)		
アセスメント・ポリシーに則る点検・評価(留年率、国試合格率など、数値化可能な成果を記入)		

委員会・組織名 教育7 リハビリテーション学部教務委員会

リハビリテーション学部教務部長

中間責任者②(部長・委員長等)氏名 池添冬芽

※1該当事項

①新中期計画、②当年度事業計画、③前年度最終報告課題、④独自の課題、⑤自己点検評価委員会からの指摘事項、に分けて記載してください。

※2評価

S:優れて達成している A:やや優れて達成している B:概ね達成している
C:やや達成が不十分 D:全く達成できていない

	委員会・組織が策定・作成(「箇条書き」で「端的に」、文末は「だ・である」調、もしくは体言止め)				教育研究推進委員会による点検・評価				
	目標・計画(具体的、かつ実現可能なもの) (教務委員会・入試検討委員会のみ)3つのポリシーに紐づく目標・計画を一つ以上設定し、別紙コード表を参考に該当項目のコードを目標の後に記載してください。		該当事項 (※1)	中間報告	最終報告		中間報告評価	最終報告(案)	
				途中経過・状況	評価 (※2)	部門講評		評価 (5段階)	講評
当初 目標・計画 (5つまで)	1	国家試験合格率100%を目指した早期からの段階的学習支援体制の構築	①③	成績不良学生については重点的に早期から国家試験に向けた基礎固めの学習に取り組むよう支援を行った。引き続き、キャリア支援委員会と連携して支援体制強化を図っていく。	A	国家試験合格率100%を目指して、キャリア支援委員会とメンターが協働して早期からの基礎科目学習支援体制の強化を図り、成績不良学生に対しては年末年始も含めて重点的に学習支援を行った。	着実に進めることができた。成果に期待する。	S	PT、OTとも100%の合格率を達成したことは評価できる。
	2	2025年度から開始された新カリキュラムの確実な実行(CP)	②③ ④	新カリ導入によって来年度2年次以降のカリキュラムが大幅に変更となるため、円滑に移行できるよう準備を進めている。	A	2025年度から開始された新カリキュラムに円滑に移行できるよう、早期から時間割調整や教育システムの改訂作業を進めた。	最終報告を待つ。	A	特に問題なく進めることができた。次年度も継続された。
	3	成績不良学生の早期発見と支援体制の構築	③	既存のGPA1.5未満の成績不良学生に対する指導・支援体制に加えて、新たな成績不良学生の早期発見・支援体制を教務委員会で検討している。	A	成績不良学生の早期発見のための基準値の見直しとともに、新たな成績不良学生に対する支援体制を構築した。	下半期の活動に期待する。	A	次年度も引き続きの活動を期待する。
	4	新たな進級制度・臨床実習教育の円滑な運用(R1,R2,R3)	②③ ④	新カリでの新たな臨床実習教育として、1年次臨床見学実習における学内教育の充実を図った。	A	新カリとなった1年生の臨床実習教育や新たな進級制度については、特に問題なく円滑な運用がされた。次年度に進級制度導入についての検証を推奨する。	着実に進めることができた。	A	次年度も引き続きの活動を期待する。
期中追加 目標・計画		学習成果の可視化			B	毎年実施している学修時間・学修行動実態調査によって修学状況の把握に努めており、この修学データからどのように学習成果を可視化していくか検討を始めた		A	より一層の可視化に努めていただきたい。

目標以外の取り組み・成果(最終報告時に記載)	委員会 評価	委員会講評
上記目標以外での3つのポリシーを踏まえた活動(対応コードもカッコ書きで記載) 積極的なキャリアリテラシー教育により、学部からの大学院(生涯健康科学研究科)進学者は2025年度の2名から2026年度は5名に増加した。	S	着実に成果を挙げている。
アセスメント・ポリシーに則る点検・評価(留年率、国試験合格率など、数値化可能な成果を記入) 2025年3月に卒業した1期生は理学療法学科・作業療法学科ともに国家試験合格率100%であった。2026年3月に卒業予定の2期生についても国家試験合格率100%を目指し、学習支援体制を整備した。	S	目標計画シートに記載のとおり。

委員会・組織名 教育9 生涯健康科学研究科教務委員会

生涯健康科学研究科教務部長

中間責任者②(部長・委員長等)氏名 中野治郎

※1該当事項

①新中期計画、②当年度事業計画、③前年度最終報告課題、④独自の課題、⑤自己点検評価委員会からの指摘事項、に分けて記載してください。

※2評価

S:優れて達成している A:やや優れて達成している B:概ね達成している
C:やや達成が不十分 D:全く達成できていない

	委員会・組織が策定・作成(「箇条書き」で「端的に」、文末は「だ・である」調、もしくは体言止め)				教育研究推進委員会による点検・評価			
	目標・計画(具体的、かつ実現可能なもの) (教務委員会・入試検討委員会のみ)3つのポリシーに紐づく目標・計画を一つ以上設定し、別紙コード表を参考に該当項目のコードを目標の後に記載してください。	該当事項(※1)	中間報告	最終報告		中間報告評価	最終報告(案)	
			途中経過・状況	評価(※2)	部門講評		評価(5段階)	講評
当初 目標・計画 (5つまで)	1 カリキュラムの運用・再構築を推進する(CP)(RM1) 2 学部生に対する進学支援により大学院生を確保する(AP) 3 学外に対する情報提供・広報活動により大学院生を確保する(AP) 4 研究科委員会との連携による特別研究(修士論文)を支援する(RM2-5)	② ④ ④ ②	カリキュラムの運用は順調に進んでいる。完成年度を迎えるまでは大きな変更はせず計画通りに進めていく。 来年度の入試に関しては、募集人数(8名)よりも多く、また昨年度より多くの受験者を確保することができ、順調といえる。受験者の7割程度は本学学部生または卒業生の進学であり、進学支援の成果と言える。 学外に向けて大学院入試説明会を開催した。その広報はSNSおよびHP掲載をメインとした。 特別研究の中間発表会を開催した。多くの教員から意見をもらうことが研究の推進に繋がっている。研究科委員会との連携は今後の課題となる。	A A A C	特に大きなトラブルはなく1年次のカリキュラムを運用することができた。教員の職位変更に伴い科目担当者を変更する案も出たが、完成年度を迎えるまで担当教員を含め計画通り進めることとなった。 学部生に対しては、入試説明会に加えてゼミ単位で進学支援を行ってきた。結果、本学部からの進学者を5名確保することができており、学部生のリクルートは好調といえる。 広報活動の結果として、学外からの受験者を昨年と同様に確保することができた。ただし、現在は最低限の広報活動にとどまっており、今後受験者を継続的に得るためには活動範囲を広げる必要があると思われる。 1年次の中間発表会(7月)を経て特別研究が進められたが、中間発表会の時期が早すぎたという意見が多数出ており再検討することとなった。研究科委員会との連携は未だなされていない。	最終報告を待つ。 着実に進め、実行できた。 着実に進め、実行できた。 最終報告を待つ。	A S A C	完成年度を終えるまでは変更は難しく、次年度も計画通り進められたい。 順調に志願者を確保できており、目標も達成することができた。 より一層の広報活動に期待する。 修業年限内の学位取得に向け、検討を進められたい。
期中追加 目標・計画								

目標以外の取り組み・成果(最終報告時に記載)	委員会評価	委員会講評
上記目標以外での3つのポリシーを踏まえた活動(対応コードもカッコ書きで記載)		
アセスメント・ポリシーに則る点検・評価(留年率、国試合格率など、数値化可能な成果を記入)		

